



なばり

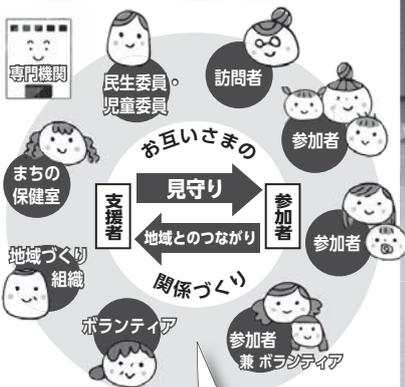
2020年(令和2年) 10月10日発行

主な内容

- 1~6… 特集 コロナを超えて、つながるまちへ。
- 7… 施設ご利用ガイド(11月) 8… 11月の相談、観阿弥祭

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉pr@city.nabari.mie.jp

「子育てサロン」にみるつながりの輪



子育てサロンは、「支援者が参加者を見守る」だけでなく、参加者同士で悩みを話し合ったり、支援者同士で情報交換したりと、地域の人がつながり、お互いが元気になる場。時には、近所の高齢者が子どもと触れ合ったり、参加者が運営に加わったりすることも。特に心配な参加者がいれば、専門機関につないでいます。



6月に再開された鴻之台・希央台地域の子育てサロン。地域の人がつながり、支え合う場として重要な役割を担っている。左がまちの保健室の三永さん、中央が参加者の佐々木さん、右が運営ボランティアの久保田さん

がんばろう! つながろう!
WE LOVE なばり

特集

コロナを超えて、つながるまちへ。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、身体的な距離をとることが求められ、地域の交流が困難に。改めて、人々との「つながり」を意識した人も多いのではないだろうか。かつてない経験を共有している私たち。一歩ずつ「日常」を取り戻そうとしている今、「つながる」ことの大切さを考えます。

外出自粛時、次々にイベントや集まりが中止に…

今年3月、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、小・中学校が臨時休業。不要不急の外出自粛や密閉・密集・密接の回避など、人と人との身体的接触を極力減らすことが求められ、次々にイベントや集まりが中止されました。

鴻之台・希央台地域の子育てサロン「さらさらひろば」でも、3月以降開催を中止。「準備しては中止になることが繰り返され、参加者の皆さんのことが気がかりな日々でした」と話すのは、運営ボランティアの久保田繁美さん。「サロンが開かれず、運営ボランティアの皆さんも少し気落ちしている様子でした」と、まちの保健室の三永拓子さんは振り返ります。

そんな中、サロンのために準備していたひなまつりのあられ、実に60人分をどうするかという新たな課題が浮上。人を集めて配ることが難しいため、鴻之台の通称「か

人と人との「つながり」を再認識するとき

今年2・3月に、市が実施した市民意識調査で、「隣近所との付き合いや交流がある」とした市民の割合は64・3%と、前年比6・2ポイントの減。平成17年の調査以来、最も低い値となりました。

一方、6月に実施された国の調査では、4割の人が「社会とのつながりの重要性を、より意識するようになった」としています。外出自粛により人と人の交流が難しくなったことで、「つながる」ことの大切さが見直されています。

感染拡大前 비해、
社会とのつながりの
重要性を、より意識
するようになった人の割合

39.3%

内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」令和2年6月

2ページ以降へ続く



「まちの保健室」って? 介護や子育てなどの不安や悩みを気軽に相談できる窓口で、市内15地域に設置。看護師や社会福祉士などの専門職を配置し、地域の皆さんとともに健康教室やサロンも実施しています。 ☎ 地域包括支援センター ☎ 63-7833



「今こそ、地域のために」と、地域に広がったマスクづくり

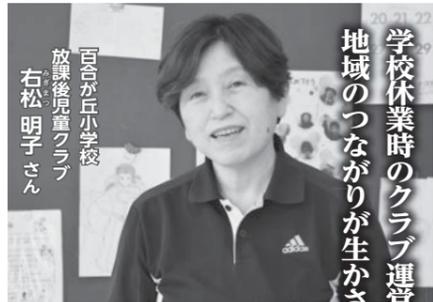
市民センターが3月に臨時休館になり、地域の活動やセンターの行事も中止。「こんな時こそ何かできることはないかな」と考えていました。ちょうどその頃、いただいた手作りマスクがヒントになって「地域のみんなでマスクを作って、手に入らなくて困っている人に届けよう」と思ったのです。

マスク作りは、市民センターやまちの保健室の職員のほか、縫製が得意そうな地域の人にも協力を仰ぎ、10人も女性が快く引き受けてくれました。当時は材料も品薄でしたが、「地域のために」という思いを聞いて、なんとか入手しようとしてくれる事業者もいました。「地域は違うが、手伝いたい」というサークル活動のメンバーや、独自に手作りしたマスクをセンターに持参いただいた人もいました。こうして、仕上がったマスクは実に400枚。4月下旬以降、民生委員・児童委員さんの協力で、ひとり暮らしの高齢者などに届けたり、「大切にしてください」と書いた手紙を添えて小学生に渡したりしました。ある高齢者からは、「私は地域に生かされています。ありがとうございます」といったお礼の手紙も頂戴しました。

得意の趣味や経験などを生かして地域や学校のためにお手伝いする人が増えていくと、もっと暮らしやすいまちになるはず。今後は、マスクづくりで芽生えた人のつながりを広げて、地域で助け合える仕組みづくりに取り組んでいきたいですね。



材料の調達から縫製、配布にいたるまで、マスクづくりの輪が地域に広がっていった。



学校休業時のクラブ運営には、地域のつながりが生かされた

全国一斉に小学校が臨時休業になるとの情報が2月末に入りました。それに合わせていつでも放課後児童クラブを開所できるよう、すぐに、スタッフのシフトを組む準備を始めました。

これまで、台風などの緊急時にクラブを急ぎょ開設することもあり、「医療従事者などフルタイム勤務の保護者が多く、休暇を取得しにくい」といった事情を、みんなで共有していました。そのため、比較的スムーズに、午前中からのクラブ開所に対応できたのだと思います。

子どもたちが密集しないよう利用者数を制限した際、保護者には、休暇を取得できたり、祖父母に預けられたりする場合は利用を控えていただくよう依頼。「より困っている人を優先しよう」と、快く引き受けていただきました。地域の人や保護者から、マスクや消毒液なども寄贈いただき、本当に助かっています。

実は、百合が丘地区では、学習支援ボランティアの「ほめほめ隊」など、普段から地域の皆さんが子どもを地域の宝として大切に見守り支援する活動が行われていて、多くの地域の人やボランティアがクラブに携わっていただいています。こうした普段からのつながりや協力があつたからこそ、困難な状況においても継続してクラブを運営できているのだと感謝しています。



「おやつを食べ終わったらマスクをしようね」と指導員。机の配置を変えて対面を避けるなど、感染防止を徹底



特集

コロナを超えて、つながるまちへ。

瞬く間の感染拡大。その時、私は動いた。



今年に入り、瞬く間に感染が拡大。暮らしが一変し、未知のウイルスに対する不安も広がっていききました。こうした中、「いま、自分ができることは何か」と考え、行動に移した人たちがいます。



ひとり親家庭などに食料品を配布。支援のつながりに感謝

私たちが運営する「なばりこども食堂」は、平成28年、やなせ宿を拠点にスタート。いつも一人でご飯を食べている子、スナック菓子で食事を済ませる子、経済的な理由から満足に食べられない親子…。名張でもこのような子どもたちが大勢います。こども食堂で食事をする時間を通して、子どもたちや保護者がちょっとだけ楽になれる、悩みを相談できる、そんな居場所を目指して活動しています。

しかし、コロナ禍で「集まって食べる」ことが難しくなり、3月から7月までは休止することに。こうした中、実施したのが食料品無料配布会でした。寄附いただいたレトルト食品や缶詰、菓子類などを詰め合わせて、ひとり親家庭など生活に困っている親子に配布。5月に2回、8・9月に1回ずつ実施し、毎回20世帯ほどに利用いただいています。

「コロナ禍で困っている人のために」と、初めて寄附をされる人や、「こども食堂応援マーケット」を開き、その売上げを寄附いただいたり、特別定額給付金を寄附いただいたりもしました。また、市内飲食店のテイクアウト情報をまとめたチラシを、デザイン会社に無料で作成いただき、利用者に配ることができました。こうした支援のつながりに感謝しています。

こども食堂は、農家や企業をはじめ皆さんからの支援で成り立っています。活動を継続していくために、今後もご支援いただけたらありがたいですね。



無料で食事が提供されるこども食堂。温かい雰囲気の中、ボランティアなどと触れ合い、心を育む場にもなっている



普段から見守っている人がいる。そのつながりを途絶えさせない

民生委員・児童委員には、ひとり暮らし高齢者や障害者など、普段から見守っている人がいます。外出自粛の中でも、「このつながりを途絶えさせてはならない」と、詐欺防止のチラシを配ったり、定額給付金の申請を支援したりしながら、継続して見守り対象のお宅を訪問。まちの保健室なども連携して、皆さんの状況を確認していました。全市的な詳しい状況把握はこれからですが、私の地区では、顔を見るなり、せきを切ったようにたくさん話してくれる人もいました。一人ひとりに寄り添った支援は、普段からの関係づくりによって成り立っています。

私は、地域のさまざまな活動にも関わっています。「大変だな」と言われますが、地域全体での見守り活動が大切で、何より、「人のために」と思っていてくると、自分の年齢も忘れちゃうんですよ。

赤目地域で移動や家事などの支援を行う「あんしんねと赤目」には、地区の民生委員・児童委員10人を含め、25人が協力員として活動しています。3月に休止したところ、「病院や買い物に行けなくなり困った」という声が続々と寄せられました。そこで、利用人数を制限して4月に再開。すごく喜ばれました。私たち自身も「こんなにも必要とされていたのか」と感じ、「もっと頑張らなあかん」と思ったものです。「ありがとう」の言葉がみんなの気持ちを温めてくれているのかもしれない。



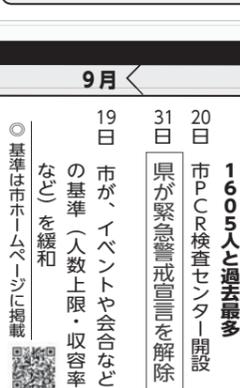
一人ひとりと顔が見える関係を築きながら、困難な事例があれば、まちの保健室などにつなげて対応していく



寄せられた数多くの「善意」

- ▶「いま、自分たちができることを」と、市民や事業所、地域、各種団体の皆さんから、数多くの「善意」をお寄せいただいています。
- ▶感染拡大の収束を願って寄贈された虎のタペストリーや銅板が、市役所の来庁者を力強く見守っています。
- ▶「ひやわん」が、マスク着用などを訴えるハンカチやポスターを保育園などに配布。子どもたちも大喜び。
- ▶「なばり愛のマスクバンクプロジェクト」で皆さんから寄せられた余剰マスクは実に3,101枚。名張青年会議所からも、皆さんから寄せられた170枚のマスクをお預かりしました。
- ▶市立病院のスタッフに心温まる夜食をいただいたり、救急車に設置するオゾン発生装置を寄贈いただいたりと、医療関係者へも多くの支援をいただきました。
- ▶マスクや消毒液、フェイスシールドなど、ここに掲載しきれない数多くの寄贈品は、市立病院などの医療機関、福祉施設、教育機関などで大切に使用されています。ありがとうございます！

寄贈品は市ホームページに掲載しています。



新型コロナウイルス感染拡大と主な動き (全国的な動きは太字)

9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	令和2年1月
19日	31日	20日	7日	3日	15日	8日	1日	6日
市が、イベントや会合などの基準(人数上限・収容率など)を緩和	県が緊急警戒宣言を解除	市PCR検査センター開設	国内で1日の感染者確認数1605人と過去最多	県が緊急警戒宣言	市内で2例の感染者(7月と8月で計7例の感染を確認)	市第2弾スタート	市内の取扱店では使えるプレミアム食券利用開始	「中国で原因不明の肺炎発生」と厚生労働省が注意喚起
								国内初の感染者
								厚生労働省対策推進本部を立ち上げ
								県内初の感染者
								市主催のイベントの開催基準を策定(不特定多数の人が参加のイベントは中止・延期を決定)
								首相が全国の小・中学校、高校、特別支援学校に臨時休業を要請
								市体育施設(屋内)の受付・利用中止
								市文化施設などを臨時休館
								市内小・中学校を臨時休業
								伊賀保健所管内で感染者
								市新型コロナウイルス対策本部設置
								市公共施設を臨時休館
								東京オリンピック・パラリンピックの延期を決定
								新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
								新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
								県が感染拡大防止緊急宣言
								国内の感染者、累計1万人を超える(福井県のクラスター発生)
								市内小・中学校を臨時休業
								市公共施設を臨時休館
								緊急事態宣言5月31日まで延長
								新型コロナウイルス対策専門家会議から、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例が示される
								8都道府県は継続
								市が特別定額給付金申請書を全市帯に向けて郵送
								緊急事態宣言を全解除
								市内小・中学校半日再開
								市内小・中学校完全再開
								市公共施設再開(一部施設は5月25日順次開館)
								市が余剰マスク提供の受付開始(なばり愛のマスクバンクプロジェクト/7月末まで)
								国の2次補正予算(31.9兆円)成立
								なばり観光応援キャンペーン第1弾スタート
								市内の取扱店では使えるプレミアム食券利用開始
								市が余剰マスク提供の受付開始(なばり愛のマスクバンクプロジェクト/7月末まで)
								緊急事態宣言を全解除
								市内小・中学校半日再開
								市内小・中学校完全再開
								市公共施設再開(一部施設は5月25日順次開館)
								市が余剰マスク提供の受付開始(なばり愛のマスクバンクプロジェクト/7月末まで)
								国の2次補正予算(31.9兆円)成立
								なばり観光応援キャンペーン第2弾スタート
								市内で感染者(7月と8月で計7例の感染を確認)
								県が緊急警戒宣言
								国内で1日の感染者確認数1605人と過去最多
								市PCR検査センター開設
								県が緊急警戒宣言を解除
								市が、イベントや会合などの基準(人数上限・収容率など)を緩和

その時、何が起っていたのか



絶対に感染者を出さない!そんな強い思いで、組合員が一丸に。ぶどう作りへの情熱は途切れない

青蓮寺湖ぶどう組合 榎本 健司さん(組合長/写真左) 雪岡 理道さん(写真右)

状況が動いたのは、緊急事態宣言が解除された5月下旬。県から感染対策を行いながら経済活動を実施する場合の考え方が示され、ぶどう組合でも独自の感染対策ガイドラインを作成することを決めました。榎本さんは、「ぶどうを作っても流通経路がなく、不安もありましたが、手洗い、はさみやざるの消毒、客が密



密集を避けるため、手洗い場を増設したぶどう園

1月頃は、まだ他人事のように思ってたよ」と話すのは青蓮寺湖ぶどう組合の榎本さん。1月5日に「いちご狩り」を開園したものの、2月頃から団体客からのキャンセルが相次ぎ、4月上旬、自主的に休園。ぶどう組合設立50周年を記念した式典も延期することに。その頃、祖父の代から続くぶどう栽培に、今年から本格的に携わるようになった雪岡さんも、「ぶどう狩りのお客さんは確実に減るだろうから、今年は、素晴らしいぶどうを作れるように専念しよう」と考えていました。

集しない動線、注意喚起看板の設置など、感染防止対策についてオープン直前まで、組合員全員で何度も話し合いました。そして、お客さんからも組合員からも絶対に感染者を出さないという強い思いを組合員が共有し、一丸となって取り組んでいきました」と当時を振り返ります。



近隣の観光地を訪れる「マイクロツーリズム」が注目される中、今年は、初めて来園したという市民の姿も多く見られた

観光ぶどう園には、お客さんとの出会いがある。直接「おいしい」と言ってもらえるのが、何よりの報酬なんです。SNSで私たちのぶどう作りへの思いに触れ、お越しいただく人も増えてきました。お客さんに食べてもらって喜んでもらうことを念頭に、祖父や父がたないできた農園で最高のぶどうを作りたい」と雪岡さん。観光ぶどう狩りが始まって半世紀。ぶどう作りにかける農家の情熱は、次の世代へとしっかりと引き継がれています。



昨年4月に、赤目四十八滝キャンプ場を公設民営化。以来、地元青年有志でつくる(一社)滝川YORIAIが管理運営を担う。移住希望者と地元住民が集える催し(左写真)が開催されるなど、「人が集える拠点」としてさまざまな取組が展開されている。

今回の企画は、運営当初から何かと支援いただいている地域の皆さんの協力があったからこそ」と重森さん。赤目まちづくり委員会会長の亀本和文さんは「地元の若い世代が頑張ってくれているので心強い。世代間で地域活性化への思いを共有しながら、できるだけバックアップしていきたい」と話します。「今後、大学とも連携して事業を継続していくことで、地域課題のフィードバックはもちろん、観光客や移住者をはじめさまざまな人をより柔軟に受け入れていける地域にしていきたい。新しいつながりが、地域活性化に向けた化学反応に結び付くはず」と重森さん。地域内外、老若男女でつながりながら、明日を見据えた活動が始まっています。

WE LOVE なばり

特集

思いをつないで、明日へ。

外出自粛を背景に、市や商工会議所には、飲食や観光関連の事業者などから「事業が成り立たない」といった悲痛な声が寄せられていました。こうした中、人の思いをつなぎながら、苦境の先にある未来に向けて歩みを進めている事業者がいます。



コロナを超えて、つながるまちへ。

外出自粛の影響で経営が悪化。名張への熱い思いで、異業種がつながり、苦境打開の扉を開く

名張商工会議所青年部会長 玖村 健史さん(写真右) 新聞販売店 代表取締役 伊集 基之さん(写真左)



市内8店舗が弁当を共同販売し、評判に(5月)

自身のお店が大変な時にも関わらず、市内飲食店の危機を救いたいと、目前で頭を下げられました。新聞販売店にはバイクや車がそろっていて事業を始めやすい。ただ、それよりも、玖村さんの責任感や男気に感じ入った、その場で引き受けさせていた

そこで、弁当販売をスタート。売上も好調だったため、他店にも声をかけた玖村さん。看板料理を組み合わせた弁当を作ったり、弁当を共同販売したりして、集客力を



7年前、私の経営する飲食店が火事になり、近隣のカフェ仲間や取引先、お客さんなどいろんな人に、営業復帰に向けて助けていただきました。今、その恩返しができる」と話すのは、名張商工会議所青年部会長の玖村さん。自身の経営する飲食店でも、外出自

高めていきました。玖村さんは「飲食店を応援しよう」と、お客さんが毎日通ってくれるんです。すごかりがたかった。それに、同じ状況に置かれている者同士がつながることで、心強く感じました」と振り返ります。



現在、登録飲食店は11店舗。前日までに電話やネットで前を注文(市内の一部エリア外)。外出困難な人にも好評だ

コロナ収束後に向けて取り組んでいるのは、人と人がつながる地域にするための仕掛けづくり

(一社)滝川YORIAI代表理事 重森 洋志さん



人が集える拠点として、赤目四十八滝キャンプ場を活用していきたい」と話すのは、赤目四十八滝キャンプ場の(一社)滝川YORIAIの重森さん。4月に休業し、施設補修などに取り組みました。再開は6月。新築したバンガローと場内Wi-Fiを活用したテレワーク応援プランを考案。「このプランにより、新しくなったキャンプ場を、市民の皆さんも含めてたくさんの人に知ってもらえた。コロナ禍の中でも、できることはたくさんある」と重森さん。そして、コロナ収束後に向けて新たに企画したのが、「大学生4人が1週間キャンプ場に住み込み、錦生・赤目地域の魅力を再発見する」という試みでした。



◆キャンプ場に住み込み、地域の魅力発見を試みた大学生(前列中央の女性4人)の発表会に地元の方々と移住定住を進めるメンバー、市職員などが集まった(9月)。

蔵持地区のまちの保健室前で開催されているラジオ体操。体温測定や参加者名簿作成など感染防止対策も徹底。隣接する保育園の園児が出席印を押ししたり、井戸端会議が始まったりと、地域の人の笑顔があふれる場となっている。



5月に緊急事態宣言が解除され、いち早く活動が再開された蔵持地域のラジオ体操。蔵持地区まちの保健室と蔵持市民センターが共催し、週に3回、15人ほどが集まります。「住民の皆さんからの要望もあつたので、感染防止対策を徹底して再開することになりました。皆さん生き生きしていますよ」と、まちの保健室の村上理恵さん。いつもラジオ体操を楽しみにしている小山美恵子さんは「屋外なので、なんとか再開できないかとまちの保健室に相談したんです。急に、集まれなくなつて、心細くなつていましたから。こころは、みんなと顔を合わせてほつとできる場所。心の拠り所になつてほしいですね」と話します。

コロナ禍に立ち向かい、取り戻そうとつづける「日常」とはー

コロナ禍に立ち向かい、取り戻そうとつづける「日常」とはー

今日も誰かとつながってる



普段からのつながり大切に



地域包括支援センター 上田 紀子

まちの保健室は、地域の皆さんと連携し、一人ひとりと顔の見える信頼関係を築いていこうとしています。普段の様子が見えると、予防的な支援も可能となります。

外出自粛時、まちの保健室には、電話などで「感染が不安」「心細い」といった相談が寄せられました。何かあった時、人と話をするだけで心が楽になることがあります。見守りが必要な人も、普段から地域でのつながりを大切にしてください。近隣で頼る人がいない人も、まずはあなたの地域の「まちの保健室」にご相談ください。

特集 / コロナを超えて、つながるまちへ。



桔梗が丘地区 まちの保健室職員

市では、「支え手」「受け手」という関係を超えて、人がつながり、互いに支え合う「地域共生社会」の実現に向けた取組を進めてきました。子育て支援、介護予防、生活援助、防災・防犯などさまざまな分野での「住民自らが考え、自ら行う」取組は、昨年12月に市内を視察したWHO(世界保健機関)からも高く評価され、コロナ禍においても、地域で築かれてきた「つながり」が生かされています。

「地域共生社会」を一步前へ

「地域共生社会」を一步前へ

一方、全国で、感染者やその家族などが疎外され、差別や誹謗中傷を受ける事態も起きています。誰もが安心して暮らしていくことを目指す「地域福祉」の原点は、人と人が顔を合わせてつながり、支え合うこと。人は人との関係の中でこそ生きていけるのです。

傷を受ける事態も起きています。誰もがいつ感染するかもしれない状況の中、互いを思いやりながら、感染防止に取り組み、ウイルスを封じ込めていく。そして、もし、自分が感染しても、温かく見守られながら、治療に専念できる。そんな社会が求められています。同じように、いずれ自分が認知症になるかもしれませんし、突然、身体が不自由になるかもしれません。地域住民がつながりながら、困ったときには手を差し伸べられるまちを築いていくことは、誰にとっても必要なことなのです。

傷を受ける事態も起きています。誰もがいつ感染するかもしれない状況の中、互いを思いやりながら、感染防止に取り組み、ウイルスを封じ込めていく。そして、もし、自分が感染しても、温かく見守られながら、治療に専念できる。そんな社会が求められています。同じように、いずれ自分が認知症になるかもしれませんし、突然、身体が不自由になるかもしれません。地域住民がつながりながら、困ったときには手を差し伸べられるまちを築いていくことは、誰にとっても必要なことなのです。

人は人との関係の中でこそ生きていける。コロナを正しく恐れながら、前進しよう



同志社大学 社会学部 教授 永田 祐 さん

名張市などをフィールドに地域福祉や包括的な支援体制について研究。名張市地域福祉計画策定委員会会長

地域で、だれもが安心して暮らしていくことを目指す「地域福祉」の原点は、人と人が顔を合わせてつながり、支え合うこと。人は人との関係の中でこそ生きていけるのです。コロナ禍でその「つながり」が否定されることは、想定外の出来事でした。それに、新型コロナウイルス感染症は、当初、影響力や対処方法など、未知の部分が多く、恐怖が前面に出て、他人をおもんばかりに難しい状況だったかと思えます。

感染拡大に伴い、全国的に地域の活動は大きく縮小しました。しかし、全ての人当事者ですから、災害時のように一致団結しやすく、「自分ごと」として、その不安や困りごとを共有しやすい状況だとも言えます。感染予防を前提とした「新しい生活様式」が示され、緊急事態宣言が解除される中、地域で助け合い支え合う活動は、徐々に再開されています。

こうした中、名張市では2つの強みを発揮できたのではないかと感じています。一つは、孤立したり、ストレスを抱えたりした人が身近に相談できる場所があること。そしてもう一つは、専門職と地域の人とがともに地域づくりを行ってきた素地があるということ。つながりの中で、地域の人々の力が生かされています。

その一方で、普段から地域とつながりがなかった人や、困っていると声を出せないでいる人は、コロナ禍の中、ますます孤立してしまっているはず。これまで続けてきた地域の行事や活動を、「コロナ禍だから」と、安易に中止してしまうのではなく、感染防止対策をしながら、何か工夫できないか、状況に応じて取り組めないかを改めて考えてみてください。新型コロナウイルスを正しく恐れながら、「地域福祉」の歩みを止めない。今は、そんなステージに入っているのだと思います。



【市民活動における感染防止の基本的な考え方(市ガイドライン)】 詳しくは、市ホームページに掲載しています。

- ①発熱者などの施設への入場防止、参加者名簿の作成 ②密閉・密集・密接の防止、マスク着用 ③手洗い、手指消毒の徹底

三重大学医学部医学科推薦入試 「地域枠B」推薦希望者募集

推薦要件 地域医療を担う医師確保のために、①～③の要件を全て満たす人を推薦対象としています。①三重大学の推薦要件を満たす ②出願予定者を現在扶養している人が市内に3年以上居住している ③卒業後、市の地域医療に貢献することを確約できる

推薦枠 2人以内 **選考方法** 面接
申込 10月12日(日)から11月2日(日)(必着)までに、推薦依頼書などの必要書類を、学校を通じて、問合せ先へ持参または郵送 ※詳しくは「三重大学学校推薦型選抜学生募集要項」をご覧ください(市HPにも掲載)。

☎ 医療福祉総務室 ☎ 63-7579

市立看護専門学校 令和3年度一般入試

試験日 12月1日(日) ※合格発表12月11日(金)

試験場所 市立看護専門学校(百合が丘西5)

出願期間 11月9日(日)～20日(金)必着

◎願書・募集要項を配布中。詳しくは、HPをご覧くださいか問合せ先へ

☎ 市立看護専門学校 ☎ 64-7700

「介護職員初任者研修(通信講座)」受講生募集 **受講無料**

研修期間 12月10日(日)～令和3年3月9日(日)

応募期限 11月18日(日)必着

対象 県内在住で無職かつ概ね70歳未満の人

申込 電話などで問合せ先へ

※実技のみ通学(10日間/津市)

☎ 県福祉人材センター ☎ 059-227-5160

食育講座Ⅱ「おいしい野菜スイーツを作ろう」参加者募集

日時 11月10日(日) 午前10時～正午

場所 名張近鉄ガス(桔梗が丘1)

対象 子育て中の人

定員 9人 ※先着順 **参加費** 500円

申込 10月13日(日)から11月5日(日)までに、来館時か電話で問合せ先へ(託児あり)

☎ こども支援センターかがやき ☎ 67-0250

「2020名張市民グラウンドゴルフ大会」参加者募集

日時 11月7日(土) 午前8時30分～午後3時頃

場所 メイハンフィールド(夏見)

参加費 500円 **申込** 10月24日(日)までに、マツヤマSSKアリーナと、武道交流館いきいきにある申込書を各施設の窓口へ提出

☎ 名張グラウンドゴルフ協会(橋部) ☎ 090-7038-9565

施設ご利用ガイド 11月

国津の杜 ☎62-6920 (はぐくみ工房あららぎ)

■ **健康体操教室(いすに座って行う優しい体操)**

日時 11月17日(日) 午前10時～11時30分

参加費 300円 **定員** 16人 **講師** 要晴香さん

■ **ストレッチ体操教室(リズムに合わせた体操)**

日時 11月24日(日) 午前10時～11時30分

参加費 300円 **定員** 16人 **講師** 福森 まみさん

■ **陶芸教室(白磁の土で「花器」づくり)**

日時 11月26日(日) 午前9時30分～3時間程度

参加費 2,800円 **定員** 12人 **講師** 角谷 英明さん

◎各教室の開催日1週間前までに、電話で国津の杜へ要申込 ※先着順

リバーナホール イオン名張店3階 ☎ 63-7388 (福祉まちづくりセンター)

■ **名張市美術作家協会作品展**

日時 11月12日(日)～15日(水) 午前10時～午後5時(初日は正午～)

■ **ヤマモト實・弥生・渉 家族三人展**

日時 11月20日(金)～24日(日) 午前11時～午後6時(最終日は午後4時まで)

マツヤマSSKアリーナ (総合体育館) ☎ 63-5339

■ **11月の一般公開**

(利用料:120円 ※中学生以下60円)

・バドミントン…11日(日) 午前9時～正午

・卓球…6日(金)・20日(金) 午前9時～正午

任期付市職員を募集

▶ **調理員**/任用期間3年/採用人数2人

▶ **防災担当監**/任用期間2年/採用人数1人

申込期間 10月14日(日)～11月4日(日)

採用日 令和3年4月1日

※詳しくは、10月14日(日)以降に、市役所2階人事研修室で配布の受験案内、または市HPをご覧ください。

☎ 人事研修室 ☎ 63-7315

市内小学校講師を急募

▶ 年齢制限なし

▶ フルタイム・パートタイムなどは応相談

▶ 中学校免許の場合は、臨時免許で対応

※詳しくは市HPをご覧くださいか問合せ先へ

☎ 学校教育室 ☎ 63-7882

adsホール (青少年センター) ☎ 64-3478

■ **神田伯山 独演会**

日時 11月1日(日)

午後2時30分～4時30分

入場料 大人3,800円

(adsホールでチケット販売中)

☎ adsホール ☎ 64-3478

■ **桜丘祭(入場無料)**

日時 11月8日(日) 午前10時～午後3時

☎ 桜丘中学校・高等学校事務局 ☎ 38-1201

■ **Music Holiday Vol.4**

みんなでベートーベン・ア・ラ・カルト

日時 11月15日(日) 午後2時～4時10分

入場料 大人2,000円、高校生以下1,000円

(前売り各500円引)

☎ ミュージックホリデイ実行委員会(菅生)

☎ 090-3930-5568

■ **ピアノ発表会(入場無料)**

日時 11月21日(土) 午後2時30分～5時

☎ 乾裕香 ☎ 090-4767-2791

■ **名張学園祭(入場無料)**

日時 11月22日(日) 午前10時～午後4時

☎ 名張地区まちづくり協議会(伊集)

☎ 090-3655-8700

やなせ宿 休館日:月曜日 ☎62-7760 祝日の場合翌日

■ **防災写真展「あの日・あの時・今は!!」**

日時 11月17日(日)～23日(祝)

午前9時～午後5時(最終日は正午まで)

■ **女性に対する暴力をなくす運動パネル展**

日時 11月25日(日)～12月8日(日)

午前9時～午後5時(最終日は正午まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止・変更する行事

令和2年度 東山墓園被災墓所追悼式

今年度の式典は中止し、東山墓園休憩所内の仮設合同追悼所に献花用の祭壇を設けます。設置期間中、ご自由に献花いただけます。※献花(菊)は市が準備します。

祭壇設置期間 10月17日(土)～19日(日)

午前9時～午後5時

☎ 東山墓園復旧担当 ☎ 63-7462

第50回 名張市社会福祉大会

今年度の大会(10月31日(日)開催)は、福祉功労者の表彰式のみを顕彰者と関係者で実施します。

☎ 市社会福祉協議会 ☎ 63-1111

NABARI スポーツエキスポ2020

日時 10月17日(土) 午前9時～午後4時

場所 マツヤマSSKアリーナ(総合体育館/夏見)

参加費 大人300円、高校生以下100円、ファミリー500円

詳しくは、マツヤマSSKアリーナHPで

ヨガ、ジム、キックボクシング、テニス、ターゲットバードゴルフなどのスポーツが体験し放題!!

☎ マツヤマSSKアリーナ ☎ 63-5339



次号予告

全世帯型プレミアム付商品券・子育て応援商品券

11月の相談

記載の電話番号は、問い合わせ先です。開催場所(所)の連絡先とは限りません。

- 弁護士相談 [11月13日(金)午前10時~午後4時]
交通事故相談 [11月6日(金)・19日(金)午後1時~3時]
行政相談 [11月19日(金)午後1時~3時]
司法書士相談 [11月20日(金)午後1時~4時]
行政書士相談 [11月26日(金)午後1時~4時]
市民・多重債務相談 *申込不要 [平日 午前8時30分~午後5時15分]
法テラス法律相談 [11月18日(金)午後1時~4時] 所 市役所 ☎ 050-3383-5470
人権相談 [11月10日(金)・17日(金)午後1時30分~4時] 所 人権センター ☎ 63-7909
介護相談 [平日 午前9時~午後5時] 所 地域包括支援センター ☎ 63-7833
障害者福祉相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 障害福祉室 ☎ 63-7591
年金相談 *要予約 [11月10日(金)・24日(金)午前10時~午後3時] 所 アスピーア ☎ 059-228-9112
女性弁護士による法律相談 *要予約 [11月6日(金)午前10時~正午、午後1時~3時]
女性のための相談 [毎週水曜日 午前9時~正午] 所 男女共同参画センター
男性のための相談 *要予約優先 [11月12日(金)午後5時~7時]
メンタルヘルス相談 *要予約 [11月19日(金)午前10時~正午・24日(金)午後1時~4時]
外国人住民相談 [火~日曜日 午前9時~午後5時] 所 多文化共生センター ☎ 64-6711
若者就職相談 (いし若者サポートステーション) *要予約 [平日 午前10時~午後4時] 所 アスピーア ☎ 22-0039
職業相談 (ハローワークプラザ名張) [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 ふれあい ☎ 63-0900
女性DV相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] *まず電話でご相談を ☎ 63-2517
家庭児童相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 ふれあい相談室 ☎ 63-2515
育児相談 [火~土曜日 午前9時30分~午後5時 (日・月曜日、祝日は休館)]
子ども支援センターかがやき (桔梗が丘西3) ☎ 67-0250
母子家庭相談 [平日 (水曜以外) 午前10時~午後5時] 所 子ども家庭室 ☎ 63-7594
子ども相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 ふれあい相談室 ☎ 63-3118
不登校相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 適応指導教室(百合が丘西) ☎ 63-7830
教育よろず相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分 (土曜は正午まで)] 所 教育センター ☎ 64-8801
青少年悩み相談 [平日 午前9時~午後5時 (土曜は正午まで)] 所 青少年補導センター(百合が丘西) ☎ 63-7867
子どもの発達相談 [平日 午前8時30分~午後5時15分] 所 子ども発達支援センター ☎ 62-1088
乳幼児健康相談 [11月4日(金) 午前9時30分~11時受付] 所 保健センター ☎ 63-6970
食生活・健康相談 [11月10日(金) 午前9時~11時] *要予約 所 健康・子育て支援室 ☎ 63-6970
がん・難病相談 [11月21日(金) 午後1時~4時] 所 勤労者福祉会館 ☎ 63-5515
在宅医療相談 [平日 午前9時~午後5時] 所 在宅医療支援センター ☎ 48-7840



観阿弥創座の地名張

第51回 観阿弥祭

日時 11月1日(日) 午前10時~11時
場所 観阿弥ふるさと公園(上小波田)



名張は「能」の大成者・観阿弥が座をおこしたところ。文化に親しみ、守り、引き継いでいくために毎年「観阿弥祭」を開催しています。
能楽愛好者団体による謡曲・仕舞や名張子ども狂言の会による狂言などが披露されます(雨天中止)。

●桔梗が丘駅発すずらん台行「小波田」バス停下車が便利です。

☎ 文化生涯学習室 ☎ 63-7892

接種費用無料化 乳幼児インフルエンザ予防接種

新型コロナウイルス感染症との同時流行を抑制するため、乳幼児のインフルエンザ予防接種を無料化します。

実施期間 10月26日(月)~令和3年1月31日(日)

対象 名張市に住民票のある生後6カ月から小学校就学前の乳幼児
助成内容 指定医療機関での接種の窓口負担が無料となります。
※ただし、期間中1人2回まで。必ず電話などで医療機関へ接種可能かご確認の上、受診してください。
※指定医療機関以外での接種は、窓口支払いの上、令和3年2月26日(金)までに、費用助成の申請が必要
○指定医療機関や助成申請など詳しくは市HPをご覧ください。
☎ 健康・子育て支援室 ☎ 63-6970

「#名張感動」投稿キャンペーン
おいしい、楽しい、美しい名張の感動体験をSNS(Instagram)で発信・拡散して、名張の観光を応援いただく投稿キャンペーンを実施中!
☎ 地域活力創生室 ☎ 63-7782

新型コロナウイルス感染症に関する相談
帰国者・接触者相談センター ☎ 24-8050
経営相談 中小企業や小規模事業者を対象に、コロナ禍に係る経営相談を実施
☎ 059-228-3326

特定健診を忘れずに。
国保特定健診 後期高齢者健診 11月30日(月)まで
☎ 保険年金室 ☎ 63-7445 (国保特定健診) ☎ 63-7105 (後期高齢者健診)

ハウスクリーニング エアコンクリーニング 家事代行 定期清掃管理 害虫駆除シロアリ 庭木管理
タスキン エスプリ ☎ 65-8411 esprit@shore.ocn.ne.jp

株式会社 瓦勝 KawaraSho
屋根から考えるリフォーム 外壁、樋もおまかせ下さい
http://www.kawarasho.jp